

和牛子牛の増頭に向けた受精卵移植技術の活用

肉用牛振興を図るうえで、肉牛のもととなる和牛子牛の安定供給が最重要ですが、和牛繁殖牛の減少に伴い出荷される子牛頭数が伸び悩んでいます。

碓高原牧場では、飼養する和牛の受精卵を J A に譲渡し、酪農家の乳用牛に移植され、産まれた子牛は約 9 か月後中丹家畜市場に出荷されるなど、J A と連携して乳用牛を活用した和牛子牛生産対策に取り組んでいます。

受精卵移植で生産された子牛の数は今年度の市場取引頭数 516 頭の内約 2 割を占めており、当場の取り組みが和牛子牛の生産におおいに貢献しています。

平成 28 年度受精卵採取・譲渡成績

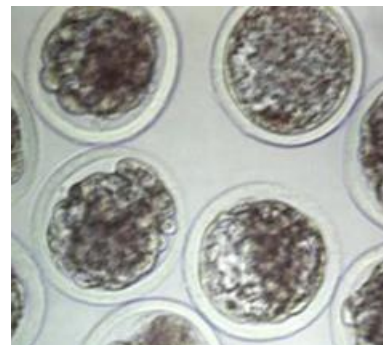
- ・採取回数 59 回
- ・回収卵数 827 個
- ・正常卵数 356 個
- ・譲渡個数 238 個



受精卵採取風景



顕微鏡による検卵



採取した受精卵

畜産センター
碓高原牧場